
**令和5年度 姫路港～坊勢島航路
生活交通確保維持改善計画**

令和4年（2022年）6月
姫路市地域公共交通会議離島航路分科会

《目 次》

1 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性	1
2 地域公共交通確保維持に係る定量的な目標・効果.....	2
3 生活交通確保維持改善事業	3
(1) 運航を確保・維持する運航予定者及び航路概要	3
(2) 費用総額及び負担者	3
(3) 改善に関する事項	3
(4) 協議会の開催状況及び主な議論	3
(5) 利用者等の意見の反映状況	3
(6) 協議会メンバー構成	4

1 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

兵庫県姫路市の姫路港～坊勢島航路は、家島諸島に位置する坊勢島（令和4年3月末現在住民基本台帳人口2,009人）と男鹿島を結ぶ離島航路であり、他に公共交通のない唯一の航路である。

令和2年10月に実施した利用者アンケート調査から、当該航路の利用者は、坊勢島住民が約6割を占めている状況である。

坊勢島には、幼稚園、小・中学校、診療所、個人店舗はあるものの、高等学校や高度医療機関、商業施設が立地しておらず、島民は通学や通院・通所、買物等の生活需要において本航路を利用しており、坊勢島と姫路港を結ぶ唯一の公共交通手段であることから、本航路は島民にとってなくてはならない生活の足となっている状況にある。

同航路上の寄港地である男鹿島においても、公共施設、医療機関、買い物施設等がまったく立地していないため、日常生活を送るためには、同航路を利用し、旧姫路市側まで移動する必要がある。男鹿島の島民にとっても坊勢島と同様に本航路が必要不可欠な生活の足となっている状況にある。

また、離島住民のみならず、幼稚園、小中学校や島内の公共施設等に勤務されている方々の通勤並びに、島内の工事・作業等に携わる方々の移動手段としても重要な役割を果たしている。

そのため、当該航路を確保・維持することは坊勢島・男鹿島両島民の生活を守ることに直結し、生活交通手段として必要不可欠である。

本航路の利用者は、近年21万人/年程度で推移し、ダイヤ再編や手荷物運賃の対象拡大（有料化）等を進め、事業支出の削減を図ってきたが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で利用落ち込み、さらに燃油価格も高騰している。今後も、新型コロナウイルス感染症の影響や島民人口の減少、燃油価格の高騰は続くものとみられ、航路事業者が単独で本航路を維持していくことは困難であり、引き続き離島航路維持には国等の公的支援が必要な状況にある。

図表1 姫路港～坊勢島航路概要

坊勢島人口	2,009人（令和4年3月末現在住民基本台帳人口）
航路	姫路港～坊勢島
定期航路概要	① 航路区間 : 姫路港～男鹿島～坊勢島（奈座港） ② 運航事業者 : 坊勢輝汽船株式会社（令和2年4月～） ③ 運航便数 : 12往復（計24便）／日 ④ 運航船舶 : 3隻（中型船1隻・小型船2隻） ⑤ 所要時間 : 32分 ⑥ 運航距離 : 22.1km ⑦ 年間旅客者数 : 212,642人（令和3年度実績）

2 地域公共交通確保維持に係る定量的な目標・効果

本航路の利用者は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度実績で年間212,642人となり、前年の令和2年度の利用者数207,578人を5,064人上回ったものの、前々年の令和元年度の利用者数の231,365人と比較し18,723人下回った。

航路における収益を確保していくためには、利用者数を維持することが重要であることから、地域公共交通確保維持事業における定量的な目標について、「現状の利用者数を維持」することを基本としつつ、今後においても、新型コロナウイルス感染症の影響や人口減少から旅客輸送量の維持は難しいと想定され、家島本島や姫路市中心部等との周遊企画、鮮度の高い魚介類を活用した独自企画や旅行代理店と連携した取り組みを検討し、余暇需要、交流人口の増加に努める。

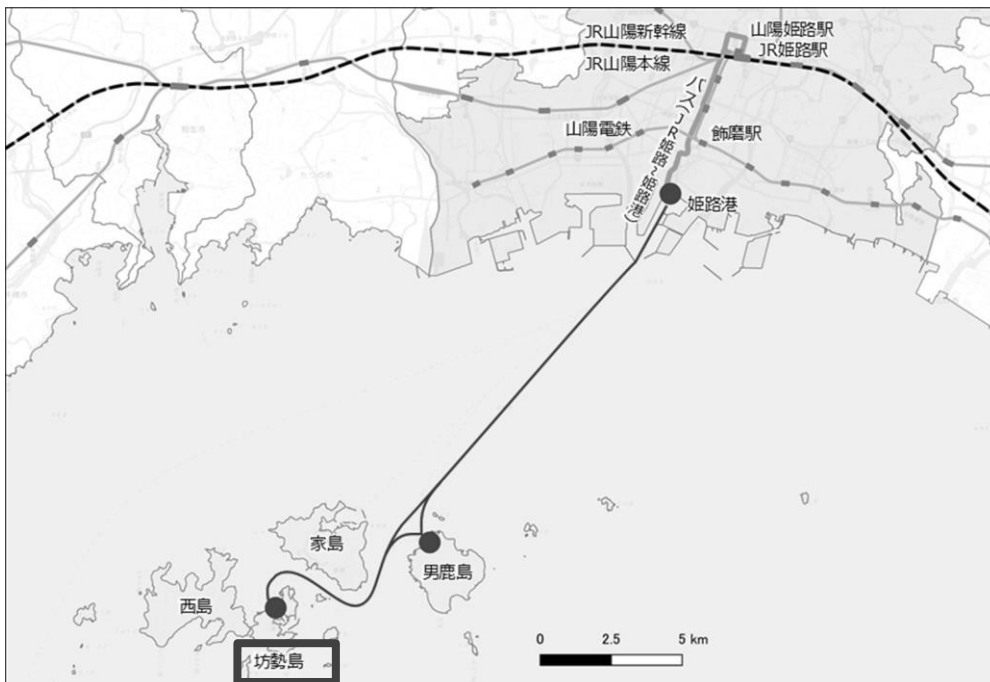
現在の状況を踏まえ、当計画の目標は「旅客輸送量」とし、過年度に実施した利用者推計の減少率（概ね5%）及びアフターコロナ期における利用者の回復を踏まえ、旅客輸送量202,010人を確保することをめざす。

また、引き続き旅客輸送量の減少など厳しい経営環境に加え、燃油価格の高騰や損耗部品価格の高騰が続くことが想定されることから、安定した航路運営に向けた取り組みとして、運航便数の減便や運賃値上げ等について検討し、最適で早期に効果が得られる運賃値上げを本年10月1日から実施できるよう準備を進め、経営の安定化を図るとともに離島住民運賃割引の導入など、具体の取り組みについても検討することとする。

<運賃値上げによる効果（片道運賃1,000円→1,300円）>

収支・片道運賃	1,000円	1,300円
収益（千円）	186,621	236,540
費用（千円）	274,515	274,515
差引（千円）	▲87,894	▲37,975

図表2 姫路港～坊勢島航路図



3 生活交通確保維持改善事業

(1) 運航を確保・維持する運航予定者及び航路概要

運航予定者及び航路概要は次のとおりである。

運航予定者：坊勢輝汽船株式会社

航路概要：以下の計画書を参照

運航計画書（様式2-2・5頁参照）

航路整備計画書（様式2-3・7頁参照）

(2) 費用総額及び負担者

令和5年度の事業収支及び負担者は次のとおりである。

令和5年度	収入見込額	236,540千円
	費用見込額	274,515千円
	収支差見込額	▲37,975千円
	運賃割引額	－
	負担者	国・兵庫県・姫路市・坊勢輝汽船株式会社
	詳細は航路損益（見込）計算書	（様式2-4・8頁参照）

(3) 改善に関する事項

詳細は離島航路3カ年計画（様式2-5・13頁参照）のとおりである。

(4) 協議会の開催状況及び主な議論

計画策定にあたって検討を重ねてきた協議会の開催状況等は次のとおりである。

協議会名称：姫路市地域公共交通会議離島航路分科会（令和4年度 第1回）

開催状況：日時 令和4年6月22日（水）

内容：「令和5年度 姫路港～坊勢島航路生活交通確保維持改善計画」（案）の承認等

(5) 利用者等の意見の反映状況

姫路市地域公共交通会議離島航路分科会において、委員である離島住民を中心に、姫路港～坊勢島航路の確保・維持、サービス・利便性向上に係る対策等について、利用者の立場から意見を求めた。

(6) 協議会メンバー構成

協議会メンバー構成は次のとおりである。

姫路市地域公共交通会議離島航路分科会委員名簿

(令和4年6月1日現在・委員14名)

	組織	所属	氏名
1	姫路市	姫路市都市局交通計画部長	柴田 桂太 (会長)
2	学識経験者	国立大学法人 神戸大学名誉教授	喜多 秀行
3	国土交通省	神戸運輸監理部海事振興部旅客課長	土谷 理恵
4	国土交通省	神戸運輸監理部総務企画部企画課長	吉村 裕行
5	国土交通省	神戸運輸監理部姫路海事事務所長	丸吉 浩
6	兵庫県	兵庫県企画部地域振興課長	山北 貴子
7	市民又は利用者代表	家島町坊勢区長	池田 一憲
8	市民又は利用者代表	家島町真浦区長	畑野 長利
9	市民又は利用者代表	家島町宮区長	福田 弁一郎
10	市民又は利用者代表	坊勢婦人会長	小林 しま子
11	商工会	姫路市商工会主席専門員	鎌谷 和弘
12	航路事業者	坊勢輝汽船株式会社総務部長	小林 正和
13	航路事業者	坊勢渡船有限会社	池田 田鶴
14	姫路市	姫路市家島事務所長	岸本 成喜

(事務局) 姫路市 都市局 交通計画部 地域公共交通課

運 航 計 画 書

令和4年6月22日

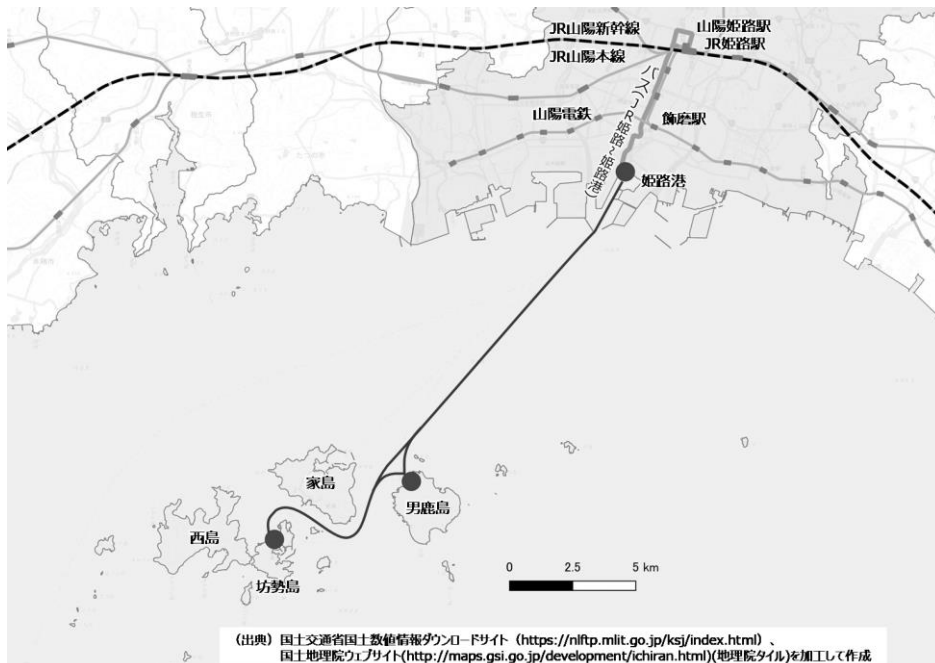
航 路 名 姫路港～坊勢島航路 事業者名 坊勢輝汽船株式会社

1. 航路の起点、寄港地、終点及びこれらの距離

	起 点	寄 港 地							終 点	合 計
港 名	ヒメジ 姫路	タンガ 男鹿							ナザ 奈座	
各港間距離 (km)	15.5km							6.6km	22.1km	
所 要 時 間	25 分							10 分	35 分	

(注) 港名にはフリガナをつけること。

2. 航 路 図



- (注) 1. 当該航路の起点、寄港地及び終点到寄港する他の航路（他社の航路を含む。）があれば、その航路を図示し、運航事業者名及び航路名を明記すること。
 2. 当該航路の起点、寄港地及び終点と連絡する他の交通手段があれば、それを図示し、その距離及び需要状況を附記すること。

3. 使用船舶（予備船を含む。）の明細

船名	船舶の種類	船質	進水年月	船舶所有者	総トン数	貨物積載容積	自動車航送に係る自動車積載面積	旅客定員（等級別に記載すること。）	主機の種類	連続最大出力	航海速度
ぼうぜ2	旅客船	軽合金	平成10年2月	坊勢汽船株式会社	19トン	—	—	70人	ディーゼル	1004KW	28ノット
はるか	旅客船	軽合金	平成13年6月	輝観光	19トン	—	—	87人	ディーゼル	942KW	28ノット
クイーンぼうぜ	旅客船	軽合金	平成9年5月	坊勢汽船株式会社	173トン	—	—	394人	ディーゼル	2440KW	22ノット

（注）予備船の船名は、かっこ書きすること。

4. 運航回数

（1）使用船舶別の運航回数

船名	運航系統	航路距離	運航期間	運航回数
ぼうぜ2	姫路～男鹿～奈座	22.1km	通年	4,040回
はるか	姫路～男鹿～奈座	22.1km	通年	4,140回
クイーンぼうぜ	姫路～男鹿～奈座	22.1km	通年	580回
計				8,760回

（注）1. 予備船の船名は、かっこ書きとすること。

2. 運航系統の欄には、直行便、抜港便又は折返し便ごとに、それぞれの起点、寄港地、終点、折返し地点を記載すること。

3. 航路距離の欄には、各運航系統ごとの距離を記載すること。

5. 発着時刻表及び運賃表

（1）発着時刻表

便	姫路→坊勢島			便	坊勢島→姫路		
	姫路発	男鹿島発	坊勢島着		坊勢島発	男鹿島発	姫路着
①	7:03	—	7:35	①	6:08	—	6:40
②	7:30	7:55	8:05	②	6:45	6:57	7:20
③	9:00	—	9:32	③	8:08	—	8:40
④	10:05	10:30	10:40	④	8:55	—	9:27
⑤	11:35	—	12:07	⑤	10:10	—	10:42
⑥	13:05	—	13:37	⑥	11:50	12:02	12:25
⑦	14:30	—	15:02	⑦	13:25	—	13:57
⑧	16:05	16:30	16:40	⑧	14:44	—	15:16
⑨	17:05	—	17:37	⑨	15:50	—	16:22
⑩	18:05	—	18:37	⑩	17:15	17:27	17:50
⑪	19:05	—	19:37	⑪	18:00	—	18:32
⑫	20:00	—	20:32	⑫	19:20	—	19:52

（2）運賃表

（新運賃案）

航路	区分	大人	中学生	小人
姫路 ↔ 坊勢島	片道	1,300円	1,000円	650円
	往復	2,600円	2,000円	1,300円
坊勢島 ↔ 男鹿島	片道	650円	500円	330円
	往復	1,300円	1,000円	650円

航 路 整 備 計 画 書

令和4年6月22日

航 路 名 姫路港～坊勢島航路

事業者名 坊勢輝汽船株式会社

経 営 主 体 の 整 備	当該航路に平行又は近接する航路において旅客定期航路事業を営む者がある場合には、当該旅客定期航路事業者との合併又は当該旅客定期航路事業の譲り受け等事業の集約を行うことの要否並びにその実施の方法及び予定期日	該当なし			
	当該航路に平行又は近接する航路において旅客定期航路事業を営む者がある場合には、当該旅客定期航路事業者とする海上運送法(昭和24年法律第187号)第28条の協定等その他の調整の要否並びにその実施の方法及び予定期日	該当なし			
運 航 の 基 本 的 条 件 の 整 備	年 度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	航 路	起 点	姫路	姫路	姫路
		主要な寄港地	男鹿	男鹿	男鹿
		終 点	奈座	奈座	奈座
	使 用 船 舶	隻 数	3	3	3
		総トン数	2 1 1	2 1 1	2 1 1
		新たに取得する必要がある場合において要する資金の調達方法	—	—	—
	運航回数の最小限	12回 / 日	12回 / 日	12回 / 日	
	1Km当りの旅客運賃の最高限	58.82円	58.82円	58.82円	

(注) 離島航路運営費等補助金を受けようとする年度以降の3年分を記載すること。

航路損益(見込)計算書

航路名 姫路港～坊勢島航路

事業者名 坊勢輝汽船株式会社
(千円)

科目	期間区分	令和元年度航路損益 (平成30年10月～ 令和元年9月)	令和2年度航路損益 (令和元年10月～ 令和2年9月)	令和3年度航路損益 (令和2年10月～ 令和3年9月)	3力年平均	航路損益見込み (令和4年10月～ 令和5年9月)	備考(増減理由)
1. 収 益		241,514	207,525	210,063	219,701	236,540	
A 運航収益		231,356	200,892	202,052	211,433	228,529	
1. 旅客運賃		214,245	186,641	190,180	197,022	218,917	
2. 手荷物運賃		0	1,317	2,478	1,265	1,100	
3. 小荷物運賃		0	4,463	8,591	4,351	7,814	
4. 自動車航送運賃		0	0	0	0	0	
5. 貨物運賃		0	0	0	0	0	
6. 郵便・信書便航送料		471	462	698	544	698	
7. 雑収入		16,640	8,010	105	8,251	0	
B 営業収益		10,158	6,633	8,011	8,267	8,011	
1. 航路附属施設収入		0	0	132	44	132	
2. 雑収入		10,158	6,633	7,879	8,223	7,879	
収 益 計		241,514	207,525	210,063	219,701	236,540	
2. 費 用		274,895	229,674	257,839	254,136	274,515	
A 運航費用		168,325	135,991	168,969	157,762	170,504	
1. 旅客費用		3,176	3,143	2,725	3,015	2,725	
(1)旅客歩金		0	0	0	0	0	
(2)傷害保険料		3,176	2,767	1,283	2,409	1,283	
(3)雑費		0	376	1,442	606	1,442	
2. 手荷物取扱費		0	0	0	0	0	
3. 小荷物取扱費		0	0	0	0	0	
4. 自動車航送取扱費		0	0	0	0	0	
5. 貨物費用		0	0	0	0	0	
(1)貨物積卸費		0	0	0	0	0	
(2)貨物歩金		0	0	0	0	0	
(3)貨物弁金		0	0	0	0	0	
(4)雑費		0	0	0	0	0	
6. 郵便・信書便取扱費		0	0	0	0	0	
7. 燃料潤滑油費		79,751	55,596	69,584	68,310	68,310	
8. 養缶水費		0	0	0	0	0	
9. 港 費		384	368	1,386	713	1,386	
(1)税金及び手数料		0	0	0	0	0	
(2)水先及び係留料等		384	368	1,386	713	1,386	
(3)代理店手数料		0	0	0	0	0	
10. 雑 費		0	0	35	12	35	
11. 船 費		85,013	76,885	95,239	85,713	98,048	
(1)船員費		64,999	63,105	71,141	66,415	77,811	
(2)船舶備品費		1,964	996	1,172	1,377	1,377	
(3)船舶消耗品費		0	0	1,410	470	1,410	
(4)船舶修繕費		17,385	12,515	21,142	17,014	17,014	
(5)雑費		664	270	374	436	436	
B 営業費用		106,570	93,683	88,870	96,374	104,011	
1. 保 険		9,020	9,346	8,283	8,883	8,386	
(1)船舶		9,020	9,346	8,283	8,883	8,386	
(2)航路附属施設		0	0	0	0	0	
2. 税 金		4,030	1,394	0	1,808	3,409	
(1)船舶		0	0	0	0	0	
(2)航路附属施設		0	0	0	0	0	
(3)消費 税		4,030	1,394	0	1,808	3,409	
3. 利 子		0	0	0	0	0	
(1)船舶		0	0	0	0	0	
(2)航路附属施設		0	0	0	0	0	
4. 減 価 償 却 費		33,733	15,390	1,839	16,987	286	
(1)航路開設費		0	0	0	0	0	
(2)船舶		33,276	15,390	1,839	16,835	0	
(3)航路附属施設		457	0	0	152	286	
5. 賃借(用船)料		877	18,879	37,330	19,029	37,330	
(1)船舶		877	18,879	37,158	18,971	37,158	
(2)航路附属施設		0	0	172	57	172	
6. 航路附属施設費		0	0	111	37	111	
7. 店 費		58,911	48,674	41,307	49,630	54,489	
費 用 計		274,895	229,674	257,839	254,136	274,515	
3. 差引当期純利益(純損失)		-33,381	-22,149	-47,776	-34,435	-37,975	
(国庫補助金)							
(都道府県補助金)							
(市区町村補助金)							

令和5年度「離島航路確保維持計画」損益計算書の見積りの考え方

項目		内容	R4年度計画	R5年度計画	
収 益	運 航 取 益	1 旅客運賃	旅客の運送契約に係る収益	R2年度（R2年4月～R3年3月）実績×98%（2%減少）推計人数×券種毎の運賃	R3年度（R2年10月～R3年9月）実績×95%（利用客5%減少）推計×券種毎の運賃
		2 手荷物運賃	手荷物の運送契約に係る収益	R2年度（R2年4月～R3年3月）実績×98%（2%減少）推計	R3年度（R2年10月～R3年9月）実績による推計
		3 小荷物運賃	小荷物の運送契約に係る収益	R2年度（R2年4月～R3年3月）実績	R3年度（R2年10月～R3年9月）実績による推計
		4 自動車航送運賃	自動車の運送契約に係る収益	-	-
		5 貨物運賃	貨物の運送契約に係る収益	-	-
		6 郵便・信書便航送料	郵便・信書便の運送契約に係る収益	R2年度（R2年4月～R3年3月）実績に基づく推計	R3年度（R2年10月～R3年9月）実績
		7 雑収入	航海及び使用船舶に関するもので前記項目以外の収益（周遊事業に係る経費）	-	-
営 業 収 益	1	1 航路附属施設収入	航路附属施設を他の事業者を使用させることによって受ける収益	R2年度（R2年4月～R3年3月）実績	R3年度（R2年10月～R3年9月）実績
		2 雑収入	航路に関するもので前記項目以外の収益（補助金、業務受託料、預金利息、電話代等）	R2年度保険料/修繕費用の収入率(15.8%)実績	R3年度（R2年10月～R3年9月）実績
費 用	1 旅 客 費	(1) 旅客歩合	旅客取扱に関する仲次人又は代理店へ支払う定率手数料	-	-
		(2) 傷害保険料	船客傷害賠償責任保険料	R2年度（R2年4月～R3年3月）実績	所要額
		(3) 雑費	旅客費のうち前記項目以外の費用（乗船券印刷代、クーポン代、感染予防対策費等）	R2年度（R2年4月～R3年3月）実績	R3年度（R2年10月～R3年9月）実績
	2	手荷物取扱費	手荷物の取扱に係る費用(手荷物券)	-	-
		3 小荷物取扱費	小荷物の取扱に係る費用	-	-
		4 自動車航送費	自動車航送に係る費用	-	-
		5 貨 物 費	(1) 貨物積卸費	貨物の船積み、陸揚げ等に係る費用	-
	(2) 貨物歩合		貨物取扱に関する仲次人又は代理店へ支払う手数料	-	-
	(3) 貨物弁金		不足、損傷、揚運等の貨物に対する弁償金及び訴訟費用等	-	-
	(4) 雑費		貨物物のうち前記項目以外の費用（送り状印刷代）	-	-
	6	郵便・信書便取扱費	郵便・信書便に係る費用	-	-
	7	燃料潤滑油費	使用船舶の主燃料及び潤滑油費	R2年度（R2年4月～R3年3月）平均単価による推計	R元年実績/108*110とR2年～R3年実績の3カ年平均
	8	養缶水費	使用船舶の汽缶水代（給イラに補充する水代）	-	-
	9 港 費	(1) 税金及び手数料	出入港税、検査証書書換手数料等	-	-
		(2) 水先及び係留料	係船料、棧橋使用料、伝馬船使用料等	計画運航回数による所要見込額	R3年度（R2年10月～R3年9月）実績
		(3) 代理店手数料	旅客及び貨物の取扱に関し代理店に支払う定額手数料	-	-
10	雑費	運航費用のうち前記項目以外の費用（船費）を除く（携帯電話使用料）	-	R3年度（R2年10月～R3年9月）実績	

令和5年度「離島航路確保維持計画」損益計算書の見積の考え方

項目		内容	R4年度計画	R5年度計画		
費用	運航費用	11 船費	(1) 船員費	船員の給料、手当、贈費、船員保険料の船主負担分、雇用停止公認手数料、福利厚生費、旅費、交通費、退職手当等	R2年度（R2年4月～R3年3月）実績 + 1名増員見込額	所要額
			(2) 船舶備品費	備品の減価償却費	R2年度（R2年4月～R3年3月）実績 + エアコン入替見込額	R元年実績/108*110とR2年～R3年実績の3ヵ年平均
			(3) 船舶消耗品費	消耗品の取得代価	-	R3年度（R2年10月～R3年9月）実績
			(4) 船舶修繕費	小修理、船舶検査に係る工事費等	H30・H31・R2年度実績の3ヵ年平均	R元年実績/108*110とR2年～R3年実績の3ヵ年平均
			(5) 雑費	船費のうち前記項目以外の費用	R2年度（R2年4月～R3年3月）実績	R元年実績/108*110とR2年～R3年実績の3ヵ年平均
	営業費用	1 保険料	(1) 船舶	使用船舶の船体保険料	R2年度（R2年4月～R3年3月）実績	所要額
			(2) 航路附属施設	使用航路附属施設の保険料	-	-
		2 税金	(1) 船舶	使用船舶に課せられる固定資産税	-	-
			(2) 航路附属施設	使用航路附属施設に課せられる固定資産税	-	-
			(3) 消費税	消費税	R2年度上半期（R2年4月～9月）実績による推計	R元実績/108*110,R2実績(減価償却資産の取得に係る控除を除く)の2ヵ年平均
		3 利子	(1) 船舶	使用船舶に関するもの	-	-
			(2) 航路附属施設	使用航路附属施設に関するもの	-	-
		4 減価償却費	(1) 航路開設費	直接航路に関する営業権、特許権、創業費、航路開発費等の無形固定資産又は繰延資産の減価償却費	-	-
			(2) 船舶	使用船舶の減価償却費	-	-
			(3) 航路附属施設	使用航路附属施設の減価償却費	-	所要額
		5 賃借料	(1) 船舶	使用船舶の賃貸料又は用船料（共有船残存簿価買取）	所要額	所要額
			(2) 航路附属施設	使用航路附属施設の賃貸料（荷受け小屋等賃借契約料）	-	所要額
		6	航路附属施設費	航路附属施設に関する光熱費、養缶水費、備品費、消耗品費修繕費等の費用（前記1～5の項目以外の航路附属施設に関する全ての費用）	-	R3年度（R2年10月～R3年9月）実績
		7	店費	航路に関する本社、支店、出張所等の一般管理費、役員報酬、事務員の給料、手当、旅費、広告宣伝費、減価償却費、保険料、修繕費、地代家賃、消耗品費、通信費等	R2年度上半期（R2年4月～9月）実績による推計	所要額

※1 令和元年10月1日から消費税等相当額10%

令和5年度「離島確保維持計画」損益計算書の見積額比較

令和4年計画値との比較

(単位:千円)

項目	R4計画 A	R5計画 B	差引 B-A	差引増減の主な理由
A 運 航 収 益	207,319	228,529	21,210	
1 旅 客 運 賃	194,638	218,917	24,279	運賃値上げによる増
2 手 荷 物 運 賃	2,954	1,100	△ 1,854	つり道具運賃の値下げによる減
3 小 荷 物 運 賃	9,265	7,814	△ 1,451	小荷物取扱個数の減による減
4 自 動 車 航 送 運 賃	0	0	0	
5 貨 物 運 賃	0	0	0	
6 郵 便 ・ 信 書 便 航 送 料	462	698	236	
7 雑 収 入	0	0	0	
B 営 業 収 益	2,701	8,011	5,310	
1 航路附属施設収入	66	132	66	
2 雑 収 入	2,635	7,879	5,244	補助金収入による増
収 益 計	210,020	236,540	26,520	
A 運 航 費 用	163,368	170,504	7,136	
1 旅 客 費	3,694	2,725	△ 969	
(1) 旅 客 歩 合	(0)	(0)	(0)	
(2) 傷 害 保 険 料	(2,942)	(1,283)	(△ 1,659)	科目更正による減
(3) 雑 費	(752)	(1,442)	(690)	
2 手 荷 物 取 扱 費	0	0	0	
3 小 荷 物 取 扱 費	0	0	0	
4 自 動 車 航 送 費	0	0	0	
5 貨 物 費	0	0	0	
(1) 貨 物 積 卸 費	(0)	(0)	(0)	
(2) 貨 物 歩 合	(0)	(0)	(0)	
(3) 貨 物 弁 金	(0)	(0)	(0)	
(4) 雑 費	(0)	(0)	0	
6 郵 便 ・ 信 書 便 取 扱 費	0	0	0	
7 燃 料 潤 滑 油 費	61,617	68,310	6,693	燃油価格高騰による増
8 養 缶 水 費	0	0	0	

令和4年計画値との比較

(単位:千円)

項 目	R4計画	R5計画	差引	差引増減の主な理由
	A	B	B-A	
9 港 費	1,039	1,386	347	
(1) 税金及び手数料	(0)	(0)	(0)	
(2) 水先及び係留料	(1,039)	(1,386)	(347)	
(3) 代理店手数料	(0)	(0)	(0)	
10 雑 費	0	35	35	
11 船 費	97,018	98,048	1,030	
(1) 船 員 費	(78,917)	(77,811)	(△ 1,106)	科目更正による減
(2) 船 舶 備 品 費	(1,301)	(1,377)	(76)	
(3) 船 舶 消 耗 品 費	(0)	(1,410)	(1,410)	感染予防対策費による増
(4) 船 舶 修 繕 費	(16,670)	(17,014)	(344)	
(5) 雑 費	(130)	(436)	(306)	
B 営 業 費 用	80,469	104,011	23,542	
1 保 険 料	9,106	8,386	△ 720	
(1) 船 舶	(9,106)	(8,386)	(△ 720)	
(2) 航路附属施設	(0)	(0)	(0)	
2 税 金	157	3,409	3,252	
(1) 船 舶	(0)	(0)	(0)	
(2) 航路附属施設	(0)	(0)	(0)	
(3) 消 費 税	(157)	(3,409)	(3,252)	課税免除期間終了に伴う増
3 利 子	0	0	0	
(1) 船 舶	(0)	(0)	(0)	
(2) 航路附属施設	(0)	(0)	(0)	
4 減 価 償 却 費	0	286	286	
(1) 航 路 開 設 費	(0)	(0)	(0)	
(2) 船 舶	(0)	(0)	(0)	
(3) 航路附属施設	(0)	(286)	(286)	
5 賃 借 (用 船) 料	37,158	37,330	172	
(1) 船 舶	(37,158)	(37,158)	(0)	
(2) 航路附属施設	(0)	(172)	(172)	
6 航 路 附 属 施 設 費	0	111	111	
7 店 費	34,048	54,489	20,441	陸員人件費による増・借入返済の開始による増
費 用 計	243,837	274,515	30,678	
差引当期純損失	△ 33,817	△ 37,975	△ 4,158	

離島航路3カ年計画 (令和5年度～令和7年度)

1. 国庫補助航路の経営改善に関する基本方針

島民人口の減少や新型コロナウイルス感染症の影響による旅客の減少が見込まれ、航路運営を取り巻く環境がますます厳しい状況の中、家島本島や姫路市中心部等との周遊企画、鮮度の高い魚介類を活用した独自企画や旅行代理店と連携した取り組みを検討し、観光・余暇需要客の獲得を図りつつ、委託費の見直しや仕入れ価格の精査など、経費節減に取り組むほか、運賃値上げによる経営安定化を図りつつ、離島住民割引制度の導入検討など、収支改善に取り組む。

今後においても、国、県、地方公共団体の欠損額補助の軽減に努め、島民や来訪者にとって身近で利用しやすい唯一の公共交通として、安全で安定的な定期航路運営に向け、収益拡大及び費用削減の両輪で進めていくことを基本方針とする。

2. 航路整備計画及び運航計画の改善に関する事項

（航路の再編、経営主体のあり方、使用船舶の代替、運航便数・ダイヤの変更等）

項 目	内 容
航路の再編	当該航路は姫路港～男鹿島～坊勢島を結ぶ航路であり、他の航路による代替可能性も無いため、航路の再編予定はない。 引き続き、姫路港発着の路線バス、坊勢島（奈座港）発着のコミュニティバスとの連携を図り、利便性向上に努める。
経営主体のあり方	現行どおり、坊勢輝汽船株式会社とする。 令和2年4月1日に事業統合を行っており、坊勢輝汽船株式会社1社による経営を継続し、引き続き健全経営に努める。
使用船舶の代替	現行どおり、「ぼうぜ2」、「はるか」、「クイーンぼうぜ」の3隻の船舶を使用する。 航路距離、所要時間、運航頻度を踏まえ、トラブル発生時や荒天時など、柔軟な輸送体制を構築するため、今後も3隻体制を維持する。 ただし、現在使用している船舶3隻は老朽化が進んでおり、将来的な代替が望まれるが、現状では新船建造に必要な費用捻出も困難であることから、設備更新等航路経営を維持する中で可能な範囲の更新を行うこととする。
運航便数・ダイヤの変更等	運航便数は、令和2年4月に4便/日を減便していることから、現行の24便/日（片道12便/日）の維持に努める。現在のコロナ禍による利用者の減少や燃油価格の高騰など、長引く経営環境悪化へ

	<p>の影響及び利用者アンケート調査結果を踏まえた朝夕の通勤時間帯の混雑緩和に向けたダイヤ重点化など、利便性低下を抑制しつつ、減便を含めた柔軟なダイヤ編成を検討していくこととする。</p> <p>また、陸上交通との接続に配慮するなど、バス事業者等と連携を図る。</p>
--	--

3. 収入の増加・確保に関する事項(輸送量の拡大・確保、運賃改定等)

項目	内容
輸送量の拡大・確保	<p>当該航路の利用者は、坊勢島住民が6割を占めており、島民の人口減少により利用者数の減少が見込まれる。</p> <p>一方で、輸送量の拡大・確保に向けては、姫路市及び家島本島と連携した周遊企画のほか、坊勢島独自の企画等、観光利用者の拡大に向けた取り組みを検討し、生活需要以外の余暇需要の拡大を図ることとする。</p>
運賃改定等	<p>令和2年4月の事業統合により、手荷物運賃の対象拡大(有料化)を実施したが、燃油価格の高止まりや島民人口の減少による航路利用者の減少、コロナ禍による島民・島外利用者の減少も大きく、航路の確保・維持に影響が出ている状況下であることから、令和4年10月1日からの運賃改定へ向け準備を開始している。</p> <p>なお、将来的に離島住民の割引制度である島民割引の導入を検討するなど島民の負担抑制を図りながら、柔軟な運賃体系を構築することとする。</p>

4. 経費の節減に関する事項(船員費、燃料潤滑油費、船舶修繕費等の節減)

項目	内容
船員費	<p>現在、予備船員を含め12名体制で運航しており、安定的な運航が継続できているが、担い手不足が慢性化していることから、引き続き船員確保に努めることとする。</p>
燃料潤滑油費	<p>当該航路の主力船舶は小型船2隻(はるか・ぼうぜ2)であるが新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、「密」を避けることが求められる状況において、航路利用者からは中型船(クイーンぼうぜ)の運航を求める声が多数寄せられている状況である。</p> <p>しかしながら、中型船の運航に伴い燃料潤滑油費は増加が見込まれ、さらに昨今の燃油価格の高騰が長引く中、現在の厳しい経営状況においては経費削減が難しい状況となっている。</p> <p>当該航路の時間帯別利用者動向等も考慮しながら、朝・夕の混雑が予想される時間帯には中型船の運航を検討し、輸送需要に対して柔軟な船舶の投入を検討することで燃料潤滑油費を最小限に抑制することとする。</p>

	<p>なお、現在、高騰している燃料価格は、原油価格相場や為替レート等に依存するものであり、最適な仕入方法を検討するものの、計画的な削減は難しい状況である。</p>
船舶修繕費等	<p>船舶の老朽化や片道22.1km、30分以上の時間を要し、毎日12便を運航する航路の性質上、船舶修繕費（船舶検査含む。）は一定金額を想定しておく必要があり、近年の状況から削減は困難と考えられる。</p> <p>新船建造も難しい状況であることから、利用者の安全性を第一に計画的なメンテナンスにより最小限の修繕に抑制し、船舶修繕費の抑制を図りつつ、本航路の運航を確保・維持することとする。</p>

5. 関係機関等との連携に関する事項

（港湾施設等のインフラ整備、離島活性化方策との連携等）

項目	内容
港湾施設等のインフラ整備	<p>現在の港湾施設を維持する。</p> <p>坊勢島（奈座港）の使用栈橋の一本化や男鹿島の陸員確保に取り組む必要がある。</p> <p>待合施設・環境は利用者満足度も高い水準にあることから、今後も引き続き、国・県・市と連携しながら、各種支援制度を活用するなど、利用者満足度を高めるため最小限の設備投資を検討することとする。</p>
離島活性化方策	<p>家島本島では、様々な周遊企画等に取り組みされており、観光客の誘致の成果が挙げられている。</p> <p>坊勢島は海水浴客や釣り客などの利用者が多いが、家島本島と比較して観光利用者誘致は進んでいない状況にある。</p> <p>今後、人口減少等に伴い生活需要は減少傾向が続くことが見込まれており、輸送量の拡大・確保と航路の確保・維持に向けて、家島本島や姫路市中心部との周遊企画のほか、漁港や鮮度の高い魚介類を活用した坊勢島独自の企画等を検討することで、余暇需要の拡大を図ることとする。</p>

6. 今後引き続き検討すべき事項

項目	内容
その他収益拡大策	<p>コロナ禍における現在の状況においては、厳しい状況ではあるがアフターコロナ期を見据え、クラウドファンディングや釣り大会・花火大会といった集客イベントを坊勢島・男鹿島内で企画するなど航路利用者の増に繋がる取組みについて検討し、その他の収入拡大・確保策、支援策についても国・県・市及び各種団体と連携のうえ検討を進めていくこととする。</p>

離島航路3カ年計画による輸送量及び収支見込み

1. 輸送量の見込み

区分		現 状	初年度	2年度	3年度
項 目		(令和4年度)	(令和5年度)	(令和6年度)	(令和7年度)
旅客	人	221,805	202,010	202,010	202,010
	人キロ	4,901,891	4,464,421	4,464,421	4,464,421
自動車	台	0	0	0	0
	台キロ	0	0	0	0
貨物	トン	59.55	154.55	154.55	154.55

2. 収支の見込み

(千円)

区分		現 状	初年度	2年度	3年度
項 目		(令和4年度)	(令和5年度)	(令和6年度)	(令和7年度)
		令和3年10月 ～令和4年9月	令和4年10月 ～令和5年9月	令和5年10月 ～令和6年9月	令和6年10月 ～令和7年9月
旅客運賃		194,638	218,917	218,917	218,917
手荷物運賃		2,954	1,100	1,100	1,100
小荷物運賃		9,265	7,814	7,814	7,814
自動車航送運賃		0	0	0	0
貨物運賃		0	0	0	0
郵便・信書便航送料		462	698	698	698
その他収入		2,701	8,011	8,011	8,011
収益計		210,020	236,540	236,540	236,540
旅客費		3,694	2,725	2,725	2,725
手荷物取扱費		0	0	0	0
小荷物取扱費		0	0	0	0
自動車航送取扱費		0	0	0	0
貨物費		0	0	0	0
郵便・信書便取扱費		0	0	0	0
燃料潤滑油費		61,617	68,310	68,310	68,310
養缶水費		0	0	0	0
港費		1,039	1,386	1,386	1,386
雑費		0	35	35	35
船員費		78,917	77,811	77,811	77,811
船舶備品費		1,301	1,377	1,377	1,377
船舶消耗品費		0	1,410	1,410	1,410
船舶修繕費		16,670	17,014	17,014	17,014
船費雑費		130	436	436	436
保険料		9,106	8,386	8,386	8,386
税金		157	3,409	3,409	3,409
利子		0	0	0	0
減価償却費		0	286	286	286
賃借(用船)料		37,158	37,330	37,330	37,330
航路附属施設費		0	111	111	111
店費		34,048	54,489	54,489	54,489
費用計		243,837	274,515	274,515	274,515
損益		▲33,817	▲37,975	▲37,975	▲37,975
収支率		86.1%	86.2%	86.2%	86.2%

離島航路第1表（日本工業規格A列4番）

航路の科目別（見込）数値等調査票

（事業者名：坊勢輝汽船株式会社 航路名：姫路港～坊勢島航路）

1. 輸送量等実績見込

項 目	補助対象年度 (令和5年度)
航路距離（キロ）（小数点第2位）	22.1
キロ当たり賃率（円）旅 客 （小数点第2位）	73.53円 【3,250円／44.2km】
航行距離（km）※1（小数点第2位）	193,596 【44.2km×12往復×365日】
運 航 回 数 ※1	4,380 【12往復×365日】
旅客輸送人キロ（小数点第2位）	4,359,031.00 【14,545人／年×15.5km +186,859人／年×22.1km +606人／年×6.6km】
旅客輸送人員（人）※2	202,010 【令和5年度利用者数(見込)】
自動車航送取扱量（台）※3	— ()
貨物取扱量（トン）※4	154.55 ()
燃料消費量（・リットル）A重油	—
※5	()
C重油	—
	()
軽 油	883,030リットル
	()

2. 使用船舶の概要 ※6

船名	就航年月	総トン数	就航比率	月延べ船員数(人)	備考
(主船)					
ぼうぜ2	平成10年 2月	19		24	
はるか	平成13年 6月	19		24	
クイーンぼうぜ	平成9年 5月	173		36	
(予備船)					

* 就航比率を使用しない場合は、「就航比率」欄は省略する。

3. 平成5年10月1日以降に当該航路に就航した船舶に係る経費等

① 船名 ぼうぜ2

② 船価 175,000千円 ※7

③ 経費実績(見込)

(単位:円)

項目	補助対象年度
船舶利子	0
減価償却費	0
用船料	10,866,876

① 船名 はるか

② 船価 120,000千円 ※7

③ 経費実績(見込)

(単位:円)

項目	補助対象年度
船舶利子	0
減価償却費	0
用船料	11,616,000

① 船名 クイーンぼうぜ

② 船価 450,000千円 ※7

③ 経費実績(見込)

(単位:円)

項目	補助対象年度
船舶利子	0
減価償却費	0
用船料	14,675,124

航路の科目別（見込）数値等調査票記載要領

補助対象年度の見込数値等は、下記注意事項により算出する。

記

- (※1) 離島航路第9表の航行距離及び運航回数とする。（運航雑収入となる他航路就航又は回航等は除く。）
- (※2) 離島航路第10表の輸送人員とする。
- (※3) 離島航路第11表の取扱数量とする。
- (※4) 離島航路第12表の取扱数量とする。
- (※5) 離島航路第16表の主燃料（A、C、軽油）の年間消費量とする。ただし、就航比率が1未満のものに関しては、第16表の船舶ごとに就航比率を加味した本航路分担消費量とする。
- (※6) 当該年度中に代替建造等により就航する予定船舶についても記入する。
月延べ船員数欄には、月間の運航日数が15日以上ある使用船舶の法定乗組定員数（船員法第69条に定める定員とする。）を当該船舶の稼働月数を基に月延べ換算した人数とする。
（注. 常時10人以上の船員を使用する事業者については、船員法97条により届出た就業規則に記載された定員数とし、それ以外の事業者については、船員法69条に基づく定員として事業者が申出た船員数と船舶検査証書の船員数のどちらか少ない数とする。）－（別紙）「月延べ船員数の算出根拠」により算出する。
総トン数欄には、当該航路に就航する船舶の総トン数を、就航比率欄には、離島航路第2表「各科目分担率（見込）一覧表」から転記すること。なお、当期中に新船が就航した場合は、備考欄に就航年月日を記載すること。
- (※7) 船舶の建造総船価とする。ただし、補助金等により建造を行った場合は、船価圧縮後の簿価とする。
- (※8) 交付要綱様式2－2運航計画書に記載した運航回数とする（運航雑収入となる他航路就航又は回航等は除く。）。
- (※9) 航路距離等の計算方法
－（別添）「国庫補助対象航路の運賃等調査表」により算出する。

(別添)

国庫補助対象航路の運賃等調査表

○ 旅客運賃

旅客……2等運賃

1 (姫路)				
A. 距離 (キロ)	15.5	2 (男鹿)		
B. 運賃 (円) 旅客	1,300			
C. 見込輸送人員 (人)	14,545 (7.2%)			
D. 距離 (キロ)	22.1	G. 距離 (キロ)	6.6	3 (奈座)
E. 運賃 (円) 旅客	1,300	H. 運賃 (円) 旅客	650	
F. 見込輸送人員 (人)	186,859 (92.5%)	I. 見込輸送人員 (人)	606 (0.3%)	

- (注) 1. 当期中に運賃改定を予定している場合、改訂の前後における輸送量比で按分した賃率とする。
(旅客…輸送人キロ比)
2. 増便区間の増便分見込輸送人員を () にて内書きすること。

※運賃等調査表による航路距離等の算出方法

$$I \quad \text{航路距離} \quad \frac{\text{航行距離}}{\text{運航回数} \times 2}$$

(小数点第2位) ※8

$$II \quad \text{キロ当り賃率} \quad \frac{B + E + H}{A + D + G}$$

(小数点第2位)

$$III \quad \text{輸送(見込)人キロ} \quad A C + D F + G I$$

(小数点第2位)

※増便分は、増便分の見込輸送人員に距離を乗じて算出する。

離島航路第2表（日本工業規格A列4番）

各 科 目 分 担 率 （ 見 込 ） 一 覧 表

該 当 科 目	分 担 率 算 式	本 航 路 分 担 率
(1) 就航比率により船舶ごとに按分するもの (7) 旅客費中の傷害保険料及び雑費 (4) 貨物費中の雑費 (7) 燃料潤滑油費 (エ) 養 缶 水 費 (オ) 船費（予備船員費を除く） (カ) 運 航 雑 費 (キ) 営業費用中の船舶に係る保険料、税金、利子、減価償却費、用船料	$\text{就航比率} = \frac{\text{当該船舶の本航路における年間走行距離}}{\text{当該船舶の全航路における年間走行距離}}$ (増便した場合の増便分の分担率) $\text{就航比率} = \frac{\text{当該船舶の本航路における増便した区間の年間走行距離}}{\text{当該船舶の全航路における年間走行距離}}$	1.00
(2) 運航回数比率により按分するもの (7) 手 荷 物 取 扱 費 (4) 小 荷 物 取 扱 費 (7) 自 動 車 航 送 取 扱 費 (エ) 貨 物 積 卸 費 (オ) 港 費 (カ) 営業費用中の航路附属施設に係る保険料、税金（事業税を除く）利子、減価償却費、賃借料 (キ) 航 路 附 属 施 設 費	$\text{運航回数比率} = \frac{\text{当該施設を利用する本航路の就航船舶の運航回数}}{\text{当該施設を利用する全航路の就航船舶の運航回数}}$	1.00
(3) 収入比率により按分するもの (7) 営 業 収 益 (4) 営業費用中の税金の(3)その他（事業税） (7) 店 費	$\text{収入比率} = \frac{\text{本航路における運航収入}}{\text{全事業収入（営業外収入を除く）}}$ (増便した場合の増便分の分担率) $\text{収入比率} = \frac{\text{当該船舶の本航路における増便した区間の運航収入}}{\text{全事業収入（営業外収入を除く）}}$	1.00
(4) 船員費の比率により按分するもの (7) 予 備 船 員 費	$\text{船員費比率} = \frac{\text{船員費の本航路分担額（予備船員に係るものを除く）}}{\text{船員費の総額（予備船員に係るものを除く）}}$	—

- (注) 1. 本航路分担率の欄に分担率算式を参考にして航路ごとに分担率を算出すること。
 2. 使用船舶の各航路別運航状況調（第9表）により分担率を算出すること。
 3. 他事業及び他航路就航のない場合は本表を省略する。
 4. 分担率は小数点以下4桁を四捨五入して3桁までとする。
 5. 運航回数比率を求める場合、回航の分については入渠の場合は往復、他航路との入替については入のみを本航路分とする。

使用船舶の各航路別運航状況調

		姫路港～坊勢島航路			～ 航路			～ 航路	回航 ～	合計
		姫路～奈座 往復44.2Km	～ Km	～ Km	計	～ Km	～ Km	計		
ぼうぜ2	回数	2,020			2,020			0.0		2,020
	延キロ	89,284			89,284			0.0		89,284
はるか	回数	2,070			2,070			0.0		2,070
	延キロ	91,494			91,494			0.0		91,494
クイーンぼうぜ	回数	290			290			0.0		290
	延キロ	12,818			12,818			0.0		12,818
	回数				0.0			0.0		0.0
	延キロ				0.0			0.0		0.0
	回数				0.0			0.0		0.0
	延キロ				0.0			0.0		0.0
	回数				0.0			0.0		0.0
	延キロ				0.0			0.0		0.0
	回数				0.0			0.0		0.0
	延キロ				0.0			0.0		0.0
	回数				0.0			0.0		0.0
	延キロ				0.0			0.0		0.0
合計	回数	4,380	0.0	0.0	4,380	0.0	0.0	0.0	0.0	4,380.0
	延キロ	193,596	0.0	0.0	193,596	0.0	0.0	0.0	0.0	193,596.0

(注) 船舶は予備船を含む全使用船舶について記入すること。ただし、本航路に関係ある港に寄港しない航路および船舶については本表に記入しないこと。

また、実施要領2. (2) ①に係る申請をする場合は、()にて増便分を内書きすること。

旅客輸送人員及び運賃収入報告（見込）

種別	区分	本航路輸送人員及び運賃収入		備考
		輸送人員	運賃収入	
普通券 (片道券)	輸送人員	35,974.0		
	運賃収入	40,340,300		
普通券 (往復券)	輸送人員	19,470.0		
	運賃収入	25,311,000		
定期券	輸送人員	52,863.0		
	運賃収入	42,472,560		
団体券	輸送人員	396.0		
	運賃収入	514,800		
回数券	輸送人員	93,307.0		
	運賃収入	110,279,000		
計	輸送人員	202,010.0		
	運賃収入	218,917,660		

(注) 実施要領2.(2)①に係る申請をする場合は、()にて増便分を内書きすること。

離島航路第12表

貨物輸送量及び運賃収入調（見込）

着港名	発港名	姫路										計
男鹿・奈座 (小荷物)	数量(トン)	142.19										142.19
	運賃収入	7,813,762										7,813,762
男鹿・奈座 (郵便・信書)	数量(トン)	12.36										12.36
	運賃収入	698,000										698,000
	数量(トン)											0.00
	運賃収入											0
	数量(トン)											0.00
	運賃収入											0
	数量(トン)											0.00
	運賃収入											0
	数量(トン)											0.00
	運賃収入											0
	数量(トン)											0.00
	運賃収入											0
	数量(トン)											0.00
	運賃収入											0
合 計	数量(トン)	154.55	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	154.55
	運賃収入	8,511,762	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,511,762

(注) 本航路における臨時運航による収入は本表に計上すること。
 また、実施要領2.(2)①に係る申請をする場合は、()にて増便分を内書きすること。

離島航路第16表

燃 料 潤 滑 油 費 内 訳 (見 込)

種 類 船 名	主 燃 料		補 助 油								合 計	本航路 分担率	本 航 路 分 担 額
	年 間 消費量	金 額	マツモF4/DH1 15W40		マリンオイルSXマルチ		マリン-T104		タービン油		金 額		
			消費量	金 額	消費量	金 額	消費量	金 額	消費量	金 額			
ぼうぜ2	399,960	30,464,221	1,380	521,620					60	24,090	31,009,931	1.000	31,009,931
はるか	341,550	26,015,238			1,200	396,000			40	16,060	26,427,298	1.000	26,427,298
クイーンぼうぜ	141,520	10,779,319					200	61,600	80	32,120	10,873,039	1.000	10,873,039
											0		0
											0		0
合 計	883,030	67,258,778	1,380	521,620	1,200	396,000	200	61,600	180	72,270	68,310,268		68,310,268

船 名	本航路 分担率	A 重 油		C 重 油		軽 油		合 計	
		全 航 路	本 航 路	全 航 路	本 航 路	全 航 路	本 航 路	全 航 路	本 航 路
ぼうぜ2	1.000		0		0	399,960	399,960	399,960	399,960
はるか	1.000		0		0	341,550	341,550	341,550	341,550
クイーンぼうぜ	1.000		0		0	141,520	141,520	141,520	141,520
合 計		0	0	0	0	883,030	883,030	883,030	883,030

- (注) 1. 本表には回航用燃料も包含して記入すること。
 2. 本航路分担率は就航比率による。
 3. 実施要領2.(2)①に係る申請をする場合は、()にて増便分を内書きすること。
 4. 3. の増便分は、増便分の就航比率による。

(別添)

新 旧 運 賃 表

区間	種類	運賃(現行)	運賃(新案)
姫路 ⇕ 坊勢・男鹿	普通券 (大人片道券)	1,000 円	1,300円 (坊勢在住の中学生 1,000円)
	普通券 (小人片道券)	500 円	650 円
	普通券 (大人往復券)	2,000 円	2,600円 (坊勢在住の中学生 2,000円)
	普通券 (小人往復券)	1,000 円	1,300 円
	定期券 (一般)	36,000 円	46,800 円
	定期券 (学生)	24,000 円	31,200 円
	定期券 (小人)	18,000 円	23,400 円
	団体券	1,000 円	1,300 円
	回数券 大人11枚綴り	10,000 円	13,000 円
	回数券 小人11枚綴り	5,000 円	6,500 円
	障がい者 (大人片道券)	500 円	650 円
	障がい者 (小人片道券)	250 円	330 円
	障がい者 (一般定期券)	25,200 円	32,760 円
	障がい者 (学生定期券)	16,800 円	21,840 円
	障がい者 (小人定期券)	12,600 円	16,380 円
坊勢 ⇕ 男鹿	普通券 (大人片道券)	500 円	650円 (坊勢在住の中学生 500円)
	普通券 (小人片道券)	250 円	330 円
	普通券 (大人往復券)	1,000 円	1300円 (坊勢在住の中学生 1,000円)
	普通券 (小人往復券)	500 円	650 円
	定期券 (一般)	18,000 円	23,400 円
	回数券 大人11枚綴り	5,000 円	6,500 円
	障がい者 (大人片道券)	250 円	330 円
	障がい者 (小人片道券)	130 円	170 円